校長メッセージ　第７号

ようやく、という言葉がぴったりのような臨時休業の終了となります。６月１日から分散ではありますが、子どもたちの登校が許可されました。学校に明るい声が戻ってきます。ご家庭ではいろいろなご苦労があったことと推察いたします。保護者の皆様から「やっとですね。」という声も聞かれました。私たち、教職員も子どもたちが学校に来られることを喜んでいます。実は、長い臨時休業で体調を崩す教員もいたようです。夏休みのように終わりがはっきりしているものではなく、いつ終わるか分からない状態での勤務は精神的に辛かったようです。教員は子どもが好きでなった人が多く、その子どもたちが学校に来ない状況というのは、いわゆる「なにか、調子が出ない」状態になってしまったのでしょう。

さて、学校再開ですが、喜んでばかりもいられません。まずは学校での感染防止が最重要となります。そのため、子どもたちにもマスクの着用をお願いします。最近、少しずつ､在庫されるようになったのか、店頭で販売されている風景を見かけます。ご家庭にあるどのような形態のマスクでもけっこうです。なければ、タオルやハンカチ、バンダナ等を工夫していただいてもけっこうです。なお、文部科学省から配布されたガーゼマスクは子どもが忘れたときの予備として学級保管とします。万一、忘れたときには予備として貸し出しますので洗って返却してください。

また、体育学習の時には、原則、マスクは着用しません。（希望者は着用可です。）これはマスクをつけていることで呼吸がしにくくなったり、口の周りに熱がたまって熱中症になったりすることを防ぐためです。そのため、普段より広くソーシャルディスタンスをとる必要があります。また、臨時休業で体が熱さに慣れていない状況が考えられるため、激しい運動は避け、個人での体づくり運動や表現活動、手を使ったパス交換のない球技等が考えられます。広くソーシャルディスタンスをとる必要があるため、水泳学習もできません。運動時は基本的に２メートル程度離れるように通知されていますが、２５メートルプールでは片側に１２人の児童しか準備できません。両側を使っても２４人ではひとクラスにも満たない人数となってしまうわけです。このような条件での水泳学習はできないため、横浜市教育委員会から本年度の水泳学習の中止が指示されました。

体育学習に関わることですが、運動会についても、子どもたちだけでなく、保護者や親族が集まることで「三密」が起きてしまうため、内容の精選、時間の短縮をするよう指示が出ています。本年度は学級減により４色対抗が難しく、紅白２色対抗の案が出されていましたが、対抗戦じたいが難しいようです。どの競技も得点制とはせず、勝ち負けのないスポーツ大会のようになることが考えられます。また、高学年による SP 活動も縮小せざるを得ない状況です。観覧についても人数の制限が必至となり、親族の方はご遠慮いただくことも想定

されます。

学習については、全学年で臨時休業中に３月からの未履修分を含め、教育課程の再編成をおこないました。本校の年間授業時数は文部科学省の示している標準時間数を大幅に超えていますが、４月からの３ヶ月分にあたる授業未実施時間数はそれを上回ります。どのように効率的に学習をすすめていくか、大きな課題です。以前、お知らせしましたように夏休み等の縮小や行事の精選による授業時数の確保、発展内容(教科書には載っているが学習指導要領にはなく、必ずしも履修しなくてもよい内容)の割愛等で内容の削減を行います。また、理科の「季節と生き物」のように４・５月に観察する内容については映像資料等を使って学習していきます。

もうひとつ、大きな課題として「子どもたちの心」の状態です。長期休業が明けるときにもよく起きるのですが、「学校に行きたくない」と感じてしまう子どもがいることです。事情は様々ですが、学校再開を楽しみにしていた子どもがたくさんいるとともにストレスに感じる子どももいるということです。それでも頑張って来た子どもの中にはだんだん「いやだなぁ」がたまってしまって体調が悪くなったり家族にあたったりするようになるケースが見られます。学校では、担任はもちろん、児童支援専任をはじめとして養護教諭、カウンセラー、SSW 等が相談体制をつくっています。なにか、ありましたらご連絡ください。

別な面から危惧されるのが「コロナいじめ」と呼ばれるいわれなき差別です。医療関係者や物流関係者、販売関係者などの人たちに対して暴言を吐いたりあからさまにいやな態度をとったりすることが報道されています。医療関係の方がいなくてはこの重大事態は乗り越えられませんし、物流や販売の方がいなければ、私たちの生活は成り立ちません。

感染防止の対策はしていても、私もいつ感染するか分からない状況です。こんなときだからこそ、みんなで温かい気持ちを持ちたいものです。

まだ、しばらくは注意が必要です。十分、気をつけて頑張りましょう。

アメリカでの出来事

日本人とアメリカ人のご夫妻に赤ちゃんが誕生しました。しかし、赤ちゃんは毎日泣いてばかり。コロナウイルスのおかげで外にも出られず、本当に困ってしまっていました。そんなある日、ポストに一通の手紙が入っていました。近くの人から「赤ちゃんの泣き声がうるさいのでなんとかしてほしい。」ということだろうと、おそるおそる手紙を開けてみると「赤ちゃんの泣く声が聞こえました。こんなときだから、外にも出られずお困りでしょう。なにか、困っていることがあったらお手伝いしますよ。必要な物があったら買ってきますよ。」という内容だったそうです。これを読んだ夫妻は大声をあげて泣いてしまったそうです。

(あるテレビ番組が実話として報道してものの受け売りです。)